

2025年度 1学年通信

## 「自分を耕す」



甲府東高等学校

2025.9.19(金)

第7号

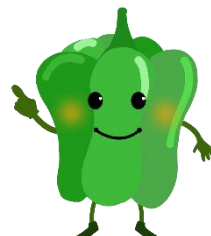
「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

「後期の合言葉：YMW」

1学年主任 樋口真理子

学年チーム名が「ピーマン」になりました。

味のアクセントになる鮮やかな緑のピーマン。中に何をつめますか？  
そんなピーマンのようにアクセントのある学年、そして中にはそれぞれの個性を詰めて、**蒼緑**を挙げて、美味しくなって（充実させて）卒業しよう！



さて、いよいよ後期が始まります。前期を通して、少しずつ高校生活に慣れ、皆さんの成長を感じる場面が増えてきました。

後期の合言葉は「YMW」。\* \*やってみないと分からない。\* \*

この言葉には、「まず行動してみることの大切さ」が込められています。考えているだけでは、何も始まりません。一歩踏み出すことで、初めて見える景色があります。

「やればできる」「まずやってみる」「わたしがやる」

そんな気持ちも、YMWの中に込められているように思います。失敗してもいい。挑戦することが、次の自分につながります。後期は、前期よりもさらに自分自身と向き合う時間が増えます。勉強も、部活動も、人間関係も、「自分次第」。だからこそ、YMWの精神を胸に、日々を大切に過ごしてほしいと思います。**ピーマン**のように元気に、そしてしなやかに、228+12の**蒼緑**で、後期を乗り越えていくことを願っています。

### 10月行事予定

| 日  | 曜 | 行                                        | 事        | 日  | 曜 | 行                       | 事                |
|----|---|------------------------------------------|----------|----|---|-------------------------|------------------|
| 1  | 水 | 後期開始 服装調整期間(～11/30)                      | 教育実習(後期) | 17 | 金 | PTA登校時マナーアップ運動          | 教育相談             |
| 2  | 木 | ▲カセット授業                                  |          | 18 | 土 | 新人大会                    |                  |
| 3  | 金 |                                          |          | 19 | 日 | 新人大会                    |                  |
| 4  | 土 | 土曜講座(1・2年)                               |          | 20 | 月 | ⑥⑦東高先輩職業人の話(1年) ※5校時後清掃 | ☺                |
| 5  | 日 |                                          |          | 21 | 火 | ▼カセット授業 献血(9:30～蒼龍館)    |                  |
| 6  | 月 | 5分短縮授業 ⑦15:40～17:00(80分)                 | ☺        | 22 | 水 |                         |                  |
| 7  | 火 |                                          |          | 23 | 木 | SOW(1年6組 東京大学訪問)        |                  |
| 8  | 水 | ⑤⑥授業公開 神無月文化祭(放)<br>※午前①～④5分短縮授業、昼SHR・清掃 |          | 24 | 金 |                         |                  |
| 9  | 木 |                                          |          | 25 | 土 |                         |                  |
| 10 | 金 | ▲カセット授業⑤薬物乱用防止教室(1年 体育館)                 |          | 26 | 日 |                         |                  |
| 11 | 土 |                                          |          | 27 | 月 | フードドライブ②(～11/7)         | ☺                |
| 12 | 日 |                                          |          | 28 | 火 | 植花作業(放)                 |                  |
| 13 | 月 | スポーツの日                                   |          | 29 | 水 |                         |                  |
| 14 | 火 |                                          |          | 30 | 木 |                         | 三者懇談(1・2年 ～11/7) |
| 15 | 水 | ▲カセット授業<br>PTA登校時マナーアップ運動                |          | 31 | 金 |                         |                  |
| 16 | 木 | PTA登校時マナーアップ運動                           |          |    |   |                         |                  |

「過去は変えられない。変えられるのは未来だけだ。」

たまにこのようなフレーズを耳にする機会があります。この言い回しが好きな人には大変申し訳ないのですが、この表現は過去というものをあまりに単純に捉えすぎているのではないかと私は感じていて、正直なところ好きではありません。

歴史（学）とは過去の事象を分析対象とする営みですが、この学問に身を投じていると、過去是不変なのではなく、むしろ、現在や将来の経験、社会状況や問題関心の所在によって、過去の出来事がもつ意味合いは常に変わり続けていく（変わり続けてしまう）可能性があるのではないかと考えることがあります。

抽象的な話になってしまいましたので、ある小説の一節を引用することにします。私の敬愛する作家、平野啓一郎の『マチネの終わりに』は、ギタリストの蒔野とジャーナリストの洋子の恋愛を主題とした小説ですが、二人が出会う物語冒頭部分で、過去や記憶にまつわるとても印象的なエピソードが描かれています。

二人が初めて出会った蒔野のコンサートの打ち上げの場で、洋子は祖母の死について話します。洋子の祖母は、家の庭で転倒し、石に頭をぶつけて亡くなってしまいますが、その石は洋子が幼少の頃、テーブルに見立ててままごと遊びをしていた石でした。幼い頃遊びに使っていた石が祖母の命を奪ってしまったことに對し、洋子は複雑な思いを抱きますが、蒔野のマネージャーの三谷は、幼い頃にはまさかそんなことになるとは思っていなかったのだから仕方がないのではないかと返答します。洋子の真意をつかみあぐねる三谷に對し、蒔野は、洋子は記憶の話をしているのではないかと切り出し、以下のように述べるのです。

「人は、変えられるのは未来だけだと思込んでいる。だけど、実際には、未来は常に過去を変えてるんです。変えられるとも言えるし、変わってしまうとも言える。過去は、それくらい繊細で、感じやすいものじゃないですか？」（平野啓一郎『マチネの終わりに』毎日新聞出版、2016 年）

このエピソードのような個人的経験もちろんですが、歴史的な事象とはこのような繊細さをもつもので、現代を生きる私たちが、無数にある過去の出来事のなにを取り上げ、私たち一人ひとりの経験や人生とどのように結びつけるかによって、過去の出来事がもつ意味は変わります。

過去の出来事そのものは変えられないかもしれませんが、それにどのような意味を与えていくかは、現在そして将来の営みが決めるものです。私事ですが、大学卒業後の進路に悩み、学部生時代とは別の分野の大学院進学を決めたとき。前任校から本校に異動したとき。それぞれの選択や転換点のもつ意味合いは当時の私にはわかりませんでした。結果として今授業で一緒にいるみなさんと出会えたことで、その選択や転換点が新たな意味をもち始めています。



文理選択に迷っている1年生、進路に悩んでいる受験生（ホームページで他学年の学年通信を読んでいる人、いますか？）。その選択が正解かどうか今はわかりません。どの道を択んでも、この先のあなたがその選択に意味合いを与えていくのです。

過去の出来事のもつ意味合いが変わっていくという思いは、将来への展望を与えうるものですが、一方で過去が変わってしまうというのは、おそろしいことでもあります。事実、現代では、ある歴史的な事象について、自分の主張にとって都合の良い一面的な部分のみを取り上げ、過度に強調することで、極端な主張がなされることがしばしばあります。それが歴史の負の側面を「なかったこと」にしてしまい、対話ではなく差別や偏見、分断を助長することに深刻な懸念を覚えています。

戦後 80 年のこの夏に公開され、満洲からの引揚げに際しソ連兵の「接待」を強いられた岐阜県黒川村開拓団の女性たちの戦後に迫ったドキュメンタリー映画『黒川の女たち』（松原文枝監督）の語りからは、「あったこと」を、「なかったことにはできない」というメッセージを強く感じました。私たちが過去の出来事に向き合い、その意味合いを考え、捉えなおすことは、「あったこと」を「なかったこと」にしてしまう社会的な不正義に立ち向かい、今の社会を、人生を、よりよく生きるということでもあるのだと思います。